

第4版の序

2008年に『薬理学・毒性学実験』が第3版として改定され、14年が経過しました。この間獣医学教育改革が進み、2012年に獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが制定され、2019年にはその改訂がなされました。このコア・カリキュラムには実習科目についても一般目標と到達目標が掲載され、獣医学教育における薬理学と毒性学の必須の実習内容が明記されました。一方、この14年の間に動物愛護に係わる法律が2012年と2019年に改正され、動物実験の3Rsの原則に基づく実験動物の飼育、保管、ならびに苦痛の軽減に関する基準の徹底や、より厳格な動物愛護の理念が制定されました。

これらを踏まえて本書第4版では大幅な内容の見直しを行い、現在の法規制と獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った薬理学・毒性学実験の内容を掲載しました。ただし、薬理学や毒性学のこれまでの発展に貢献した重要な実験については、現在では実施できない実験であっても一部掲載しています。

本書の改訂において、日本獣医薬理学・毒性学会（公益社団法人日本獣医学会に所属する分科会）に所属する多くの先生方にご執筆いただきました。また、出版に当たっては文永堂出版の松本 晶様、木村美佐子様には大変お世話になりました。多くの先生方、ならびに文永堂出版のスタッフの方々にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

本書が獣医薬理学ならびに毒性学の実習実施において学生や教員に十分利用され、薬理学と毒性学の理解を深める一助となるだけでなく、獣医系以外の大学での教育や企業での研究の一助となることが本書の出版に関わった全員の願いです。

2023年3月
日本獣医薬理学・毒性学会